

8月号 School Aid Japan

スクール・エイド・ジャパン

Dream通信

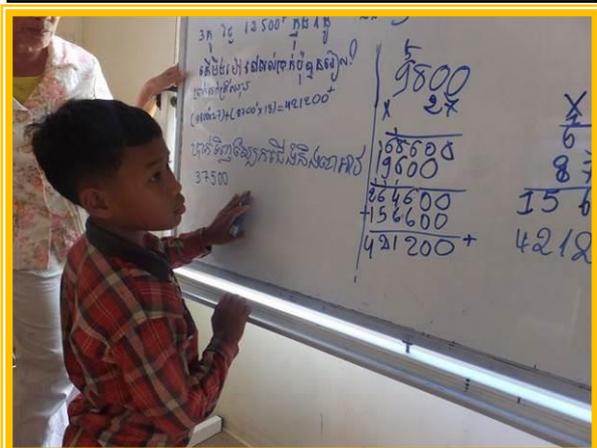
2015. 8. No.89



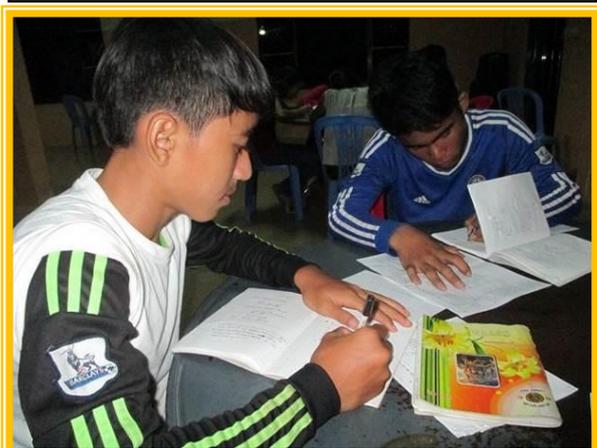
努力の実を咲かせよう ～輝かしき未来のために～



まずは文字を書くところから



副園長先生と数学の授業



夜も友達と一緒に自習

皆さん、こんにちは。日本は夏本番で毎日猛暑が続いていることと思いますが、体調は崩されていないでしょうか？

年中暑いイメージのあるカンボジアですが、今は雨期に入り、暑い日もあればスコールが降るとやや肌寒く感じられる日もあります。また、急な気温の変化により体調を壊しやすい時期でもあります。しかしそんな中でも、子どもたちは雨をも吹き飛ばすほど毎日元気いっぱい園内を走り回っています。

さて、今回のドリーム通信では、期末試験前の子どもたちの園での勉強の様子、7月から働き始めた日本人職員についてお伝えいたします。

園での勉強の様子

カンボジアの学校は二期制になっており、10月から2月が前期、3月から7月が後期にあたります。今はちょうど後期の学期末試験前で、子どもたちにとって、とても大事な時期です。子どもたちは良い成績を取るために、毎日朝から晩まで一所懸命勉強に励んでいます。

小学校は半日授業のため、午前と午後のどちらか学校へ行き、園に居る時間は学校の先生を雇って補習授業を行ったり、園の職員が勉強を教えています。授業の最初は集中して取り組んでいますが、時間が経つにつれて集中力が切れ、眠たくなったりお喋りが始まったりすることもあります。しかしその都度先生や職員から注意を受け、再度集中して勉強に励むことが出来ています。

中学生は午前と午後の両方に学校の授業があり、午後学校に行く前のわずかな時間に、英語・数学・物理の補習授業を行っています。昼食後すぐの授業になるため、眠そうに目をこする子が数多くいますが、顔を洗ったり水を飲んだり、自分たちで工夫して眠気と戦い、授業に臨んでいます。そして補習授業が終わるとすぐに「行ってきます！」と元気に学校へ向かいます。

高校生も午前と午後の両方、学校の授業があります。高校生は園での補習授業はありませんが、学校の授業が終わった後も



高校3年生はラストスパート！



同学年の子どもが教え合う様子



はじめまして、平江です！



子どもたちと農作業に励む

学校の先生が行っている塾に通っています。特に高校3年生は期末試験を終えると高校卒業試験も控えているため、勉強にもよりいっそう熱が入ります。医者になるために大学受験を希望している子、電気エンジニア関係の会社で働きたい子など、それぞれ自分たちの夢を叶えるために、自分たちの豊かな将来のために、必死に頑張っています。

毎日夕食後にも学年ごとに勉強が得意な子が苦手な子に教えたり、友達同士で教えあったりして勉強しています。自分たちで考えても分からない時には、上の学年のお兄さんやお姉さんに教えてもらうこともあります。

午後9時の就寝時間後も中学生以上の子どもは、各部屋でソーラーランタンの灯りを付け夜11時頃まで勉強しています。朝4時に起きて、ランタンの明かりで勉強する子もいます。

園では毎日の補習のスケジュールを決めていますが、大きくなるにつれて補習以外の時間でのグループワークのスケジュール、朝晩の部屋での自習スケジュール、高校生の塾の日程など、自分たちで決めなければならない状況が増えていきます。何事もやらされるのではなく、自ら進んで行動し、自分で決めたことは最後までやり遂げる、そんな大人になって欲しいと思っています。そして毎日10時間以上も勉強に当てている子どもたちのため、何とか良い成績を取ることが出来るよう、日々子どもたちのサポートをしていきたいと思っています。

新職員の紹介

皆さん初めまして、こんにちは。7月1日から夢追う子どもたちの家で勤務をさせていただいております、平江 芙美（ひらえ ふみ）と申します。

私は高校の卒業旅行で東南アジアの開発途上国へ行ったことがきっかけで、自分の暮らしは決して当たり前ものではないという事に気付きました。そしてこの目の前の現状が少しでも変わる為に自分に何か出来ることはないのだろうかと考えようになりました。

去年初めてカンボジアに来て、孤児院の子どもたちとふれあう中で、子どもたちの希望に満ちた笑顔と底抜けの明るさに元気をもらい、また子どもたちに無限の可能性を感じました。

私の夢は、助け合いの世界をつくることです。そのために子どもたちが思いやりと感謝の気持ちを大切にし、相手の立場になって物事を考えられる人になって欲しい、そして自分自身で夢を見つけ、その夢に向かってひたむきに取り組むことの出来る人になって欲しいと願っています。

一緒に働くスタッフたちと一体になり、日々助け合いながら子どもたちに寄り添い、また日々、子どもたちから多くのことを学びながら、自分自身も一緒に成長していきたいと思っています。